

2019年度第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

- ✓ 日時 :
2019年8月8日（木）17時30分～18時30分
- ✓ 当社出席者 :
常務取締役 竹内、取締役 古川

【全体】

Q) 米中貿易摩擦の影響はあるか。

A) 対中関税第4弾の対象になっている製品もあるが一部に過ぎず、貿易摩擦の直接的な影響は織り込んでいない。しかし、一連の動きによる消費マインドの低下等の間接的な影響を受ける可能性はある。

Q) 棚卸資産が増加している要因は何か。

A) 生産調整を行っているムーブメントは前年比でかなり減らせている。しかし、機種によって在庫状況が異なり、過剰になっているものもある。完成品は北米市場の売上減少により販売拠点で在庫が増えている他、製造仕掛品の在庫増加もある。また、工作機械事業においても、売上減少に伴う在庫増の他、カスタム対応による長納期化も在庫の増加要因となっている。

【時計事業】

Q) 時計事業の第1四半期実績について。

A) 完成品については、中国市場は3月のセルインが多かった点、また、北米市場においては7月のセルインが多かったことが、第1四半期という3ヵ月で区切った場合、実態以上に悪くなったと見ている。北米市場では特にジュエリーチェーンの閉鎖が進んでおり、流通在庫が重くなっている。国内市場は堅調であり、消費増税を控える中、年末商戦に向けた新商品を投入していく。

ムーブメントは、2018年度までの状況が継続している。引き続き機械式が堅調に推移する一方で、新たなトレンドが出ていない。

Q) 時計事業の第2四半期以降の見通しについて。

A) ムーブメントの生産調整は第2四半期後半には平準化できる見通し。完成品については、国内市場は堅調、北米市場はディズニー社との提携のもと MARVEL コレクションの展開など、施策を打っていく。北米および中国はインターネット流通に注力し、完成品の営業利益率向上を目指す。

Q) 時計事業において下方修正を行った背景について。どこが期初想定と異なったのか。

A) 期初想定時よりも市場環境が悪化している。中国市場はインターネット流通が好調なもの、実店舗販売は弱含みの情勢。北米市場は一旦終息したと見ていた流通再編が再び進行しており、クリスマス商戦を含め厳しく見る必要があると考えた。ムーブメントは想定よりも回復が遅れており、上期までは厳しい状況が続く見通し。

【工作機械事業】

Q) 工作機械事業の受注状況について。ボトムはいつと見ているか。

A) 第1四半期の受注は前年同期比2割程度の落ち込みとなったが、通期でも同程度の落ち込みを想定している。反転は2020年度以降になるとの想定は前回(5/13)から変えていない。

期初、受注は前年同期比1割程度落ち込むと見込んでいたが、日工会の見通しが引き下げられたのと同様に、当社でも下方修正を行った。見通しは引き下げたものの、特に依存度の大きい地域や業種がなく、北米や中国で好調の医療系が下支えとなり大崩れにはならないと見ている。今回の受注の見立てが充分かということについては、不透明な部分もある。

Q) 工作機械事業の営業利益率が低下しているが、要因は何か。

A) 売上減少に伴う稼働益の低下および、製品ミックスの悪化が影響している。欧州・国内市場が軟調となっており、営業利益率の悪化傾向を織り込んだ。

以 上